

筑波大学（茨城県つくば市）の情報学群知識情報・図書館学類は、今秋の推薦入試からビブリオバトル方式の面接を導入する。コミュニケーション能力を見るうえで、表現力や質問力、聞く力が問われるビブリオバトルが適している」と判断した。

受験生5人程度が3人の教員の前で、ビブリオバトルの公式ルールに沿い、5分間で自分が選んだ本を紹介しあう。その後、受験生同士で質疑応答を行う。

教員は、受験生が5分間のプレゼンテーションで自分の考えをうまく伝えられるか、説得力のある説明ができるか

情報学群

知識情報

図書館学類

同学類は昨秋まで個別面接を実施し、調査書や小論文と合わせて合否を決めてきた。面接では「図書館と電子化」などのテーマを与え、意見を述べてもらった後、教員が質問する。近年は、

いう。

同学類の募集定員100人中、推薦入試の募集は40人。情報、知識を有効活用するためのシステムづくりを学ぶ。歳森敦学類長は「発言の機会をつかめず、実力を発揮できない可能性のあるグループディスカッションとは異なり、ビブリオバトルならば平等に発言の機会を確保できる。新方式導入で、他者に自分の考えを伝えることに積極的な『外向きの本好き』を呼び込みたい」と期待を込める。

筑波大推薦入試に導入

に注目。質疑応答では、自分の持つ知識を組み合わせて質問できるか、他の受験生から出た質問の意図を酌み、的確に回答できるかを評価する。

同じグループの受験生の投票で、どの本が一番読みたくなかったかを決めるが、チャンプ本に選ばれるかどうかは、評価には影響しない。

くくっていた。そのため、完成度の高いルールがあり、知らない本について即興的な対応が求められるビブリオバトルを導入することにしたと